

準備物 **ペンライト**

他覚的定量眼位検査-Hirschberg(角膜反射法)



目的

大まかな近見の顕性斜視角の他覚的定量

光源の位置に注意!!
健眼が中心固視で光源を注視する十分な視力(0.1前後)があればOK。

半暗室にて被検者の正面に位置し、検者の観察眼と光源を同軸にして約33cmの距離にて被検者の鼻根部に照射し、光源を注視するように指示する



他眼は閉瞼すること。

YES

両眼の瞳孔中央に角膜反射があるか?

NO

両眼の瞳孔中央に角反がある

右眼 瞳孔中央 動揺(-)	左眼 瞳孔中央 動揺(-)
---------------------	---------------------

一眼の瞳孔中央に角反はない

例) 左眼の場合

右眼 瞳孔中央 動揺(-)	左眼 瞳孔中央でない 動揺(?)
---------------------	------------------------

両眼の瞳孔中央に角反はない

山本裕子:
斜視・弱視の
診断検査法
P7より

右眼 瞳孔中央でない 動揺(-)	左眼 瞳孔中央でない 動揺(-)
------------------------	------------------------

定性検査

瞳孔中央が角反より外側

瞳孔中央が角反より内側

瞳孔中央が角反より上側

瞳孔中央が角反より下側

正位(広義)ortho

外斜視 XT

内斜視 ET

上斜視 HT(L/R)

下斜視(固視眼のHT)(R/L)

γ角異常
黄斑変位など

長所

- ・潜伏眼振のある人の測定ができる。
- ・乳幼児に簡便に行える。
- ・斜視眼の視力が不良でも可能である。

短所

一眼の場合は例外として。

定量検査 * 左眼内斜視(赤線):外斜視(青線)の場合

角反が角膜縁

角反が瞳孔縁と角膜縁の間

角反が瞳孔縁

角反が瞳孔中央と1mmの差

記載例)

Hirschberg 法 (sc)
+45°(+68°) ET
-45°(-68°) XT
(固視交代不可 R-fix)

Hirschberg 法 (sc)
+30°(+50°) ET
-30°(-50°) XT
(固視交代困難 R-fix)

Hirschberg 法 (sc)
+15°(+25°) ET
-15°(-25°) XT
(固視交代可 R<L)

fixがない場合はL-ETが多いという事。

Hirschberg 法 (sc)
+7°(約 12、3°) ET
-7°(約 12、3°) XT
(固視交代可 R=L)

この検査時、流れて固視検査()も併記する。詳細は固視検査で。

近見なので略語眼位に「ダッシュ」を付ける所もある。

散瞳気味だと誤差あり。

角反の位置を図示する所もあり色々。
()の中は新換算値で1mm=12、3°とした場合。